

## 生物科学学会連合 第13回定例会議 議事録

日時：2016年3月5日（土）14:00～16:00

場所：東京大学理学部2号館2階223号室（東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内）

出欠状況：

出席（加盟団体）：

運営委員

中野 明彦（生科連2015-2016代表）

浅島 誠（生科連副代表） 宮島 篤（生科連副代表） 石野 史敏

団体代表

宮下 直\*（個体群生態学会）

菱田 卓（日本遺伝学会）

高橋 秀幸（日本宇宙生物科学会）

仲嶋 一範（日本解剖学会）

後藤 聡（日本細胞生物学会）

浦野 徹（日本実験動物学会）

加藤美砂子（日本植物学会）

酒井 敦（日本植物形態学会）

福田 裕穂\*（日本植物生理学会）

竹居光太郎（日本神経化学会）

和田 圭司（日本神経科学学会）

宮下 直\*（日本生態学会）

都築 功（日本生物教育学会）

佐藤 竜馬（日本生物物理学会）

小西 真人（日本生理学会）

遠藤斗志也（日本蛋白質科学会）

野尻 秀昭（日本農芸化学会）

上野 直人（日本発生生物学会）

竹井 祥郎（日本比較内分泌学会）

妹尾 啓史（日本微生物生態学会）

深川 竜郎（日本分子生物学会）

細矢 剛（日本分類学会連合）

（計22団体）

欠席（加盟団体）： 日本味と匂学会、日本時間生物学会、日本進化学会、日本生化学会

日本動物学会、日本比較生理生化学会、日本免疫学会、日本薬理学会

（計8団体）

（加盟合計30団体）

出席（委員会）：

小林 武彦（ポストドク問題検討委員長）

出席（日本学術会議）：

岡部 繁男（基礎医学委員会幹事）

福田 裕穂\*（基礎生物学委員長）

出席（オブザーバー）：

北里 洋（自然史学会連合）

（計1団体）

（敬称略、団体名50音順）

事務局 中西 秀彦 村田 英樹

議題・報告：

1. 前回議事録の承認

第12回定例会議の議事録案が確認され、原案通り承認された。

2. 日本農芸化学会の入会について

中野代表より、日本農芸化学会が今回の定例会議より正式に会員として参加しており、これで生科連への加盟団体は30団体になった旨の報告がなされた。引き続き日本農芸化学会代表として出席した野尻秀昭氏より、日本農芸化学会の紹介ならびに加入に当たっての挨拶が述べられた。

3. 平成27年度会計報告について

事務局より、平成27年度会計について報告がなされ、ほぼ予算額通りの決算状況となり、当期収支差額が約20万円の黒字決算であった旨の説明がなされた。

また、会計監査は6月～7月頃に受ける予定である旨報告がなされた。

協議の結果、平成27年度会計報告は会計監査委員の監査報告に基づき、次回の定例会

議で承認することが確認された。

4. 平成 28 年度予算案について

事務局より、平成 28 年度予算案は第 12 回定例会議で承認されているが、その後の平成 27 年度会計報告に伴う繰越金の確定に伴い、若干の変更箇所が生じる旨の報告がなされた。

引き続き中野代表より、ポスドク問題検討委員会の関係で 2016 年秋に日本学術会議でシンポジウムを開催する可能性があり、場合によってはシンポジウム関連の支出として改めて予算を計上する可能性があるとの説明がなされた。

協議の結果、平成 28 年度予算案は原案通り承認され、併せてシンポジウムが開催された際の支出をする方向性についても承認された。

5. 役員の改選について

中野代表より、本年 10 月に改選される次期代表について、資料に基づき例年通り 7 月 15 日に公示予定である旨の説明がなされた。

6. IBO・JBO(国際生物学オリンピック)について

都築国際生物学オリンピック日本委員会委員（日本生物教育学会副会長）より、本年 7 月にベトナムで開催される国際生物学オリンピックに向けての、国内予選も兼ねている「日本生物学オリンピック 2016」の募集要項等について説明がなされた。

また、都築委員より 2017 年の国際生物学オリンピックはイギリスで開催予定である旨報告がなされた。

引き続き浅島副代表より、2020 年の国際生物学オリンピックは日本で開催予定であり、長崎国際大学を予定しており、現在趣意書の作成を行っているとの説明がなされた。また、問題の作成に関してはかなりの負担となるため、各加盟団体に対して一層の協力依頼がなされた。

これに対し中野代表より、科学オリンピックは AO 入試の対象として脚光を浴びており、生科連として作題への協力をして欲しいとの依頼がなされた。

7. ポスドク問題検討委員会について

小林ポスドク問題検討委員会委員長より、最近の動向として科学新聞に「卓越研究員制度」の記事が掲載されとの報告がなされた。

これに関連して小林委員長より、「卓越研究員制度」は 40 歳未満という年齢制限があるが、40 歳以上のポスドクは 25%に達しており、ポスドク問題の解決にはあまり寄与しないため、この年齢制限は緩和すべきとの認識が示された。

引き続き意見交換がなされ、学位取得後の年数制限はない点、間接経費が取得できる点、大学側が推薦できる点などの情報提供などが行われ、「卓越研究員制度」については引き続き注視していくことが確認された。

8. 日本学術会議関連報告

福田日本学術会議基礎生物学委員長より、平成 28 年度予算案に関する議題で中野代表が述べた、ポスドク問題に関する日本学術会議の学術フォーラムについての骨子について報告がなされ、2016 年 9 月 12 日（月）に東京大学の小柴ホールで開催予定、内容は「ポスドク 1 万人計画」から現在までの経緯とこれからの新たな対策について議論する予定であるとの説明がなされた。

引き続き中野代表より、これまで定例会議でも議論された「国立自然史博物館」構想の提言に向けて動きつつあるとの報告がなされた。

9. 後援シンポジウムの企画について

中野代表より、議題 8 の補足事項として、9 月に開催される学術フォーラムについては「卓越研究員制度」に関する内容とし、生科連は共催という形で開催したいとの説明がなされた。

引き続き意見交換がなされ、これまで予算措置がなされても一時的なものに過ぎなかった点、対象となるポストクの意見をどのように反映させるかを考える必要がある点、「ポストク 1 万人計画」などこれまでの制度が機能しなかったことへの分析が必要である点、博士の就職先である企業の裾野の拡大が必要である点などの意見が出された。

その後、中野代表ならびに浅島副代表より、学術フォーラムの開催に当たり、生科連加盟団体への協力依頼がなされた。

#### 10. その他

##### 1)生物系学会の合同大会の開催について

中野代表より、日本分子生物学会と日本生化学会は合同大会を開催しているが、この合同大会により多くの学会に参加してもらうことはできないかという提起がなされ、合同にすることで参加者の増加が期待できること、発表内容の充実に繋がるのが期待できる反面、規模の小さい学会では独自大会の発表者が減ることが懸念されることなど背景について説明がなされた。

その後意見交換がなされ、合同大会ではなく協賛という形態もあるのではないかと、合同大会にすると学会独自の個性が失われる恐れがあるのではないかと、地球惑星科学連合の連合大会のような開催形態が望ましいのではないかなどの意見が出された。

中野代表より、本件については色々な可能性が考えられるので、引き続き生科連として検討を続けたいとの意見が述べられた。

##### 2)「理数教育におけるアクティブ・ラーニング」開催報告

都築日本生物教育学会副会長より、資料に基づき「理数教育におけるアクティブ・ラーニング」の開催報告がなされた。

##### 3)「教科『理科』関連学会協議会」シンポジウム開催案内

都築日本生物教育学会副会長より、資料に基づき「教科『理科』関連学会協議会」シンポジウムの開催案内がなされた。

##### 4)日本生物教育会の次期学習指導要領に向けてのシンポジウム開催案内

都築日本生物教育学会副会長より、資料に基づき日本生物教育会の次期学習指導要領に向けてのシンポジウムの開催案内がなされた。

中野代表より、次回の定例会議開催日について、2016年10月8日(土)に開催する旨提案がなされ了承された。時間は14:00~16:00、会場は東京大学理学部2号館2階223号室とすることが確認された。

以上